

宜野湾高校の生徒達へ（38）

2020.8.25

新型コロナウイルスによる休校でオンライン授業が注目され、本校でも実施に向けた調整を行っている。オンライン授業について、鈴木大祐氏（教育研究者）は次のように述べている(朝日新聞 7/3:一部引用)。

学校は「人を育てる」場所です。授業はその一部にすぎない。**オンライン授業**だって、普段会えないような人とつながるような、**教育の可能性を広げる方法**があるはずです。

「オンライン授業で広がる世界」(朝日新聞 7/27:一部引用)では、オンライン授業を主体的な学びに活用する取組(東京都調布市立多摩川小学校)を紹介している。同校の門野幸一教諭(5年生担任)は、

「教室の学びを社会とつなぐ、『コロナだからこそできた』授業をめざしています」と話す。インドの塾校長との交流、沖縄の人に特産や気候を教わる、オーストラリア在住の人に季節の違いを聞く……。5年生の全クラスをつなぎ、週替わりで講師を呼ぶ。門野教諭が SNS 等で築いた人脈だという。「**人をつないで現実を知ると、子どもたちは意欲的になる。そこから探究的な学習が始まります。**」



「主体的・対話的で深い学び」に詳しい田村学氏（國學院大学教授）は、「オンラインを上手に使うと**時間や空間を越えて、学習がより豊かになる**。実際の授業と長所を合わせたハイブリッド型の手法も考えられる」(朝日新聞 7/27)と述べている。

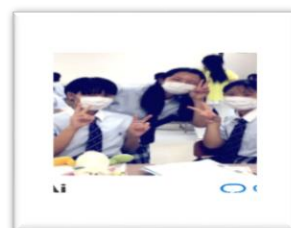
この視点は、本校で「総合的な探究の時間」を進める上でも大いに参考になる。本校でも岩手県立大船渡高校と Zoom を活用した会議に参加した生徒もいる。

また、本校の「総合的な探究の時間」では、**夏休み中にアクションした地域社会との関わり**で、視野を広げたことや知り得た疑問や関心、課題をまとめ、報告する機会をもち、今後の探究を進めるための問い出しやヒントを得る時間を予定している。「総合的な探究の時間」も学校外の人たちとの出会いの中で、学びを広げ、深めていく良い機会になるので、1・2年生はしっかり取り組もう！

さて、冒頭で鈴木氏が指摘している「人とのつながり」を模索している教師が本校にもいる。この授業(Online class :Ginowan SHS and Singapore)は、普通コース1年5・6組：英語コミュニケーションI(大城桂子クラス)。目的は、本校生徒(英語のクラス)が**シンガポールの生徒とグループを組み、語学力の向上及び、互いの生活(文化)を学び、理解を深めることを目指し、オンライン学習を通して自分の考えを英語で発信する力を高める機会とするもの**だ。交流校は、40周年海外派遣事業で交流を予定していた Kranji Secondary School(シンガポール)である。この授業に参加した**生徒の感想**は、次の通り。



- ★外国の人と英語だけで交流することができたので**少し英語に自信**がついた。積極的になれたこと。外国の人とちゃんと話したのは初めてだったので、勉強になりました。
- ★今回は、初めての活動だったので、緊張してうまく参加ができなかった。**もっとなれていくと英語力も伸びて上手に会話をすることができると**思いました。
- ★**質問に英語で即答できる力**は、必要だと思う。
- ★**しっかり理解できなかった**ので、**もっと英語を勉強しよう**と思う。



生徒の感想から、この取組によって生徒たちが英語に対する自信や英語学習の必要性を感じていることがわかる。いま、私たちは新型コロナウイルスによって窮屈な生活を余儀なくされているが、そんな状況でもオンライン授業によって、皆さんの学びの可能性を広げることができるように学校も模索していきたい。

今回、オンライン授業を取り上げたのは「総合的な探究の時間」における地域への取材が制約を受ける中、オンラインによって地域(世界)とつながる方法もあることを皆さんに紹介したかったからだ。

「**ピンチはチャンス!**」 苦しい状況を突破するために、これまで思いもつかなかったアイデアで新たな可能性を開く。それによって、これまで見えなかったものが見えてくる(と思う)。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎